

# 確定拠出年金は2つある

## ◆ 企業型確定拠出年金

- ◆ 会社の退職金制度の一部  
(ないし全部)
- ◆ 会社が導入し、社員が入る  
(ほぼ自動的)
- ◆ 掛金は会社が出してくれる  
(本人が追加拠出できることもある)

## ◆ 個人型確定拠出年金 (iDeCo)

- ◆ 個人の自助努力による老後の備え
- ◆ 金融機関が提供し、個人が入る  
(任意)
- ◆ 掛金は自分で出す  
(その分、税金が軽くなる)

- 自分で資産運用の選択を行う
- 運用の結果は自己責任になる
- 積み立てられた資産は自分の財産である

# 退職金の一部として採用されている企業型

- ◆ 企業型の確定拠出年金は退職金の一部(ないし全部)として採用されているしくみ
- ◆ 一部が確定拠出年金の場合、退職一時金や企業年金制度(確定給付型)と組み合わせられている
- ◆ 退職金制度のすべてが確定拠出年金の場合もある
- ◆ 会社員の約5.5人に1人は確定拠出年金の加入者

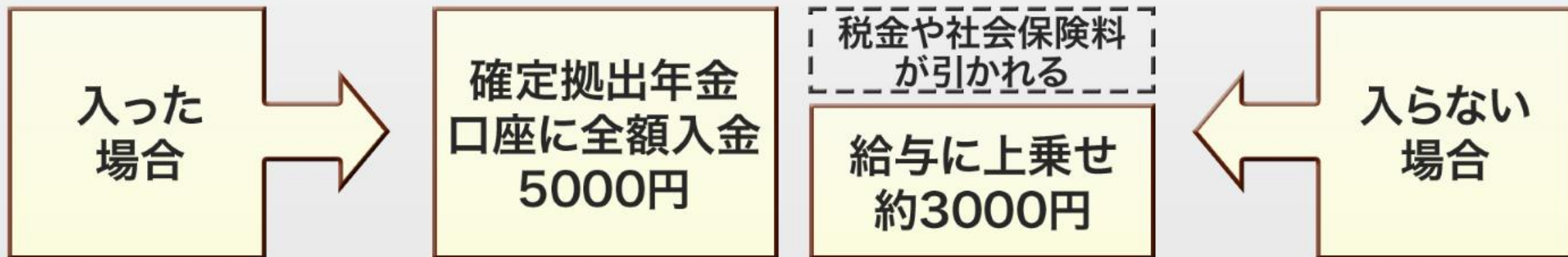
一部が  
確定拠出年金

一部は  
退職一時金  
など

退職金制度のすべてが  
確定拠出年金

# 入るか入らないか選んでいいよと言われたら「入る」ほうがベター

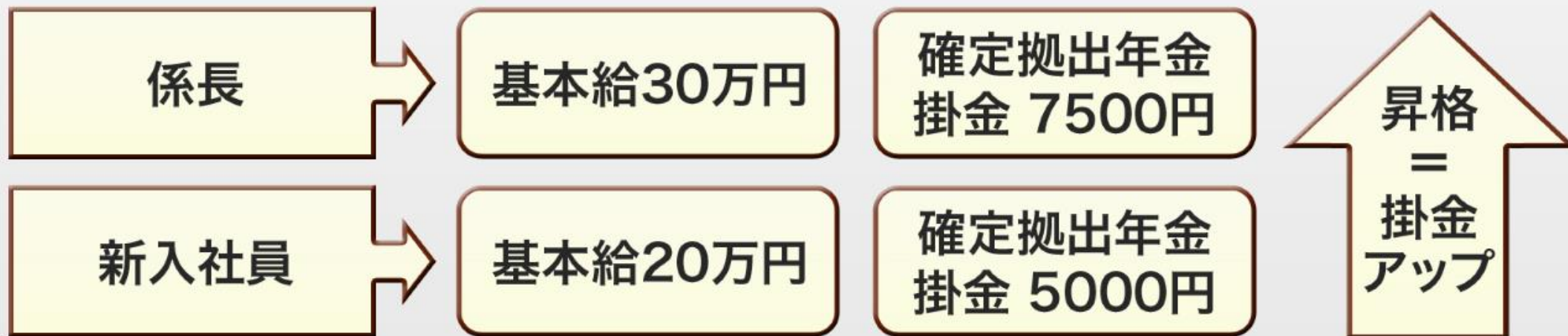
- ◆ 確定拠出年金に入るか、入らないか、加入選択ができることがある
- ◆ よく分からないから、手取りの給料が増えるから、と「入らない」と選ぶ人がいるがこれはお得ではない
- ◆ 税金や社会保険料が20%以上(もっと引かれることも)引かれることを思うと確定拠出年金に入るほうがお得
- ◆ 老後のお金を少しでも増やしておく、という意味でも確定拠出年金を活用したい



※引かれる額は年収等によって異なる

# お金は会社が出す

- ◆ 企業型の確定拠出年金は、「会社が毎月の掛金」を出す
- ◆ 職階級に応じて掛金額が決まるのが一般的
- ◆ 簡単にいえば「給与が高い人、責任ある仕事をしている人ほど、確定拠出年金の掛金もたくさん出る」ということ
- ◆ 仕事をがんばることは確定拠出年金の掛金をアップさせる「運用」でもある



※掛金率が基本給の2.5%の例

## 運用は自分でやる

- ◆ 企業型の確定拠出年金は、会社が出してくれた掛金をどう増やすかは自分で決めなければいけない
- ◆ 「安全確実」でも「ほんの少ししか増えない」方針でもOK
- ◆ 「リスクを取って大きく増やす」が「短期的には値下がりするかも」という方針もOK
- ◆ またふたつの方針を組み合わせることもOK
- ◆ 自分で決めた運用の結果はうまくいっても、いかなくても、自己責任

# マッチング拠出があったら、さらに有利に

- ◆ 3社に1社は「マッチング拠出」制度を採用している
- ◆ 会社がお金を出してくれる確定拠出年金に、自分のお金を追加拠出することができるしくみ
- ◆ 個人型確定拠出年金 (iDeCo) は自分の老後のために貯めると所得税や住民税が軽減する仕組みだが、マッチング拠出はこれと同等の効果が得られる (企業型の確定拠出年金加入者は原則としてiDeCoに加入できない)
- ◆ 利用枠の制限があるが、できれば使える範囲で積立をしてみたい

**積立段階でお得**

○積み立てたお金については所得税や住民税の計算対象とならないので、数十%くらいお得になる

**運用段階でお得**

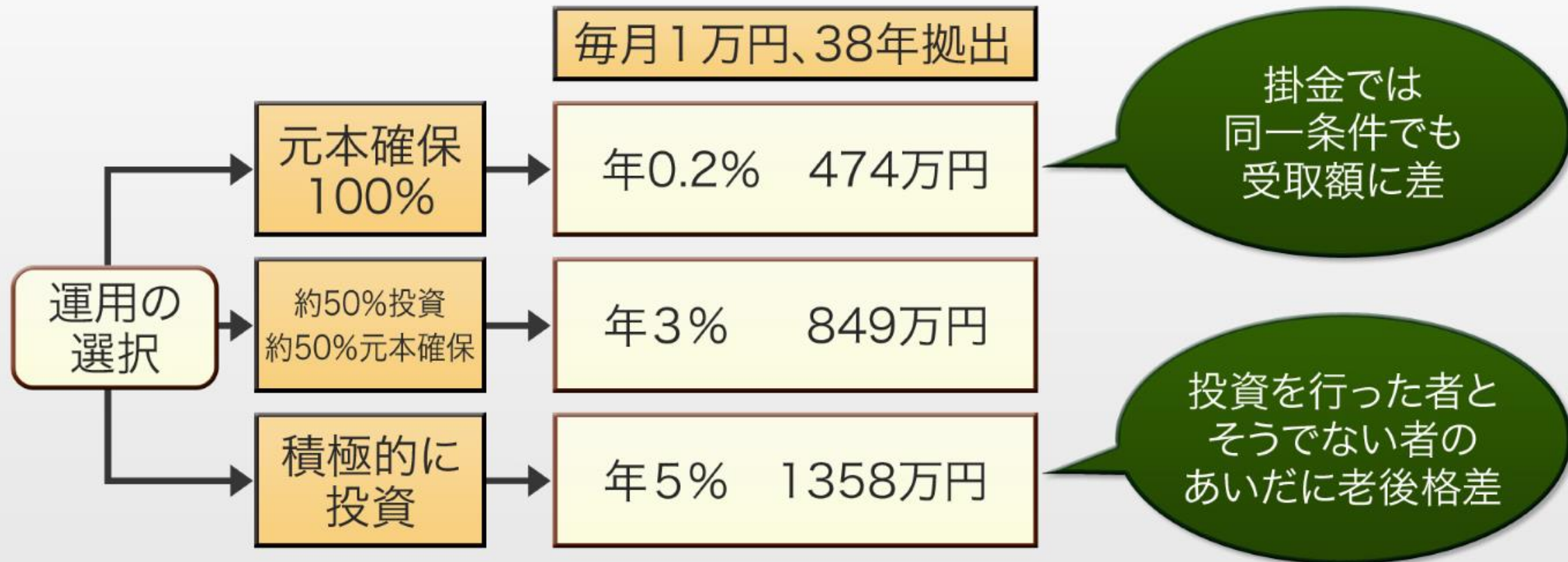
○運用でどれだけ増えても利益については非課税

**受取段階でお得**

○会社の拠出分と合算して退職金とみなす (税制優遇)

# 運用の差は「退職金額の差」につながる！

- ◆ 同じ条件で会社がお金を出してくれても、運用成績の違いで定年退職時の受取額は約3倍に開く可能性がある
- ◆ 同じ仕事をしていて「退職金が違う」ことになる



# 運用の選択肢は「元本確保型商品」と「投資商品」がある

## ◆ 元本確保型商品

- ◆ 最初に提示された「満期期間」と「利回り」が約束されており、満期がくると元本と利回りが支払われるしくみ
- ◆ 銀行の定期預金、生損保の保険商品など
- ◆ 現状では超低金利でありほとんど増えない
- ◆ 手数料はかからない(含まれている)
- ◆ 中途解約時には元本割れすることもある

## ◆ 投資商品

- ◆ 最初に提示された運用方法に従い、株式や債券などリスクのある商品で運用されるしくみ
- ◆ 投資信託の仕組みが用いられる
- ◆ 運用対象の実績により、値上がりすることも、値下がりすることもある
- ◆ 手数料がかかる(予め示されている)



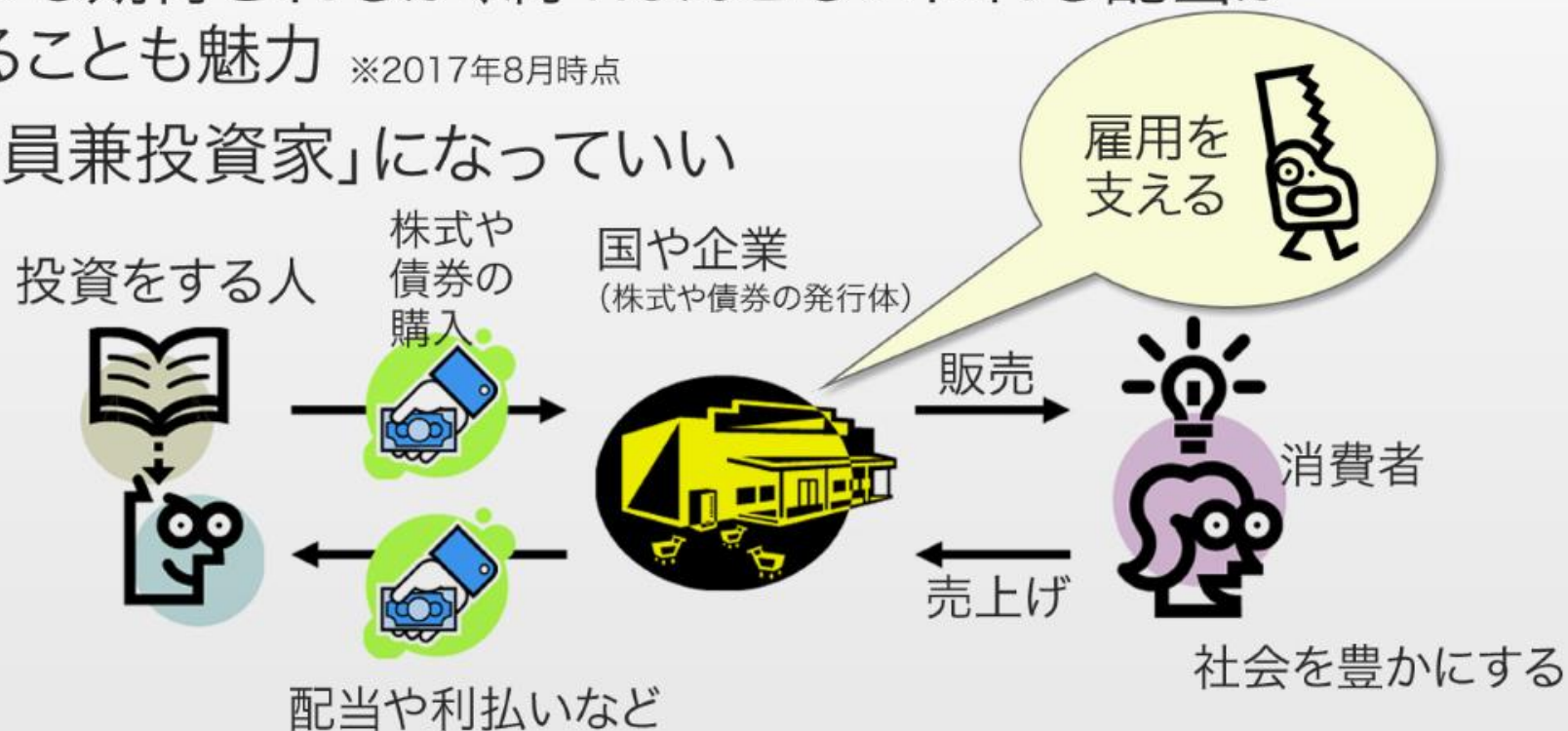
# 投資信託を使って投資する

- ◆ ひとりひとりの小さなお金を大きくまとめて運用する
- ◆ 細かい売買はプロに任せる
- ◆ 儲かったときも損したときもすべて還元される
- ◆ 運用の方針や手数料は予め開示される
- ◆ 運用の報告は定期的に行われる
- ◆ 毎日一度価格が変わり売買できる
- ◆ 個人が投資するとき便利なくみ



# 株式投資は世の中が成長していくと、自分のお金が増えるしくみ

- ◆ 投資は一部の金持ちのマナーゲームではない
- ◆ 投資は、投資した企業が成長し、社会が豊かになり、経済の成長を通じて自らの資産も増やすことのできるしくみ
- ◆ 株価の値上がりも期待されるが、約1.6%ともいわれる配当が株主に行われることも魅力 ※2017年8月時点
- ◆ 会社員は「会社員兼投資家」になっていい



# 「元本確保型商品」と「投資商品」を組み合わせる考え方

- ◆ 確定拠出年金は投資を「一部しても」「全部しても」「まったくしなくても」いい
- ◆ 投資についてまだ理解度が十分でないなら、「一部を投資、一部を元本確保型」にする組み合わせで運用してみるといい

## 全額元本確保型

- 安全で確実な増やし方
- ただし現在は超低金利の環境でほとんどお钱が増えない
- 物価が値上がりしたとき「実質」的には値下がりしたことになる

一部  
元本確保

一部  
投資信託

- 資産を「値下がりしないが大きくは増えない」「値上がりするが値下がりも」の組み合わせで増やす方針
- 組み合わせの割合で値動きの大きさを調整できる

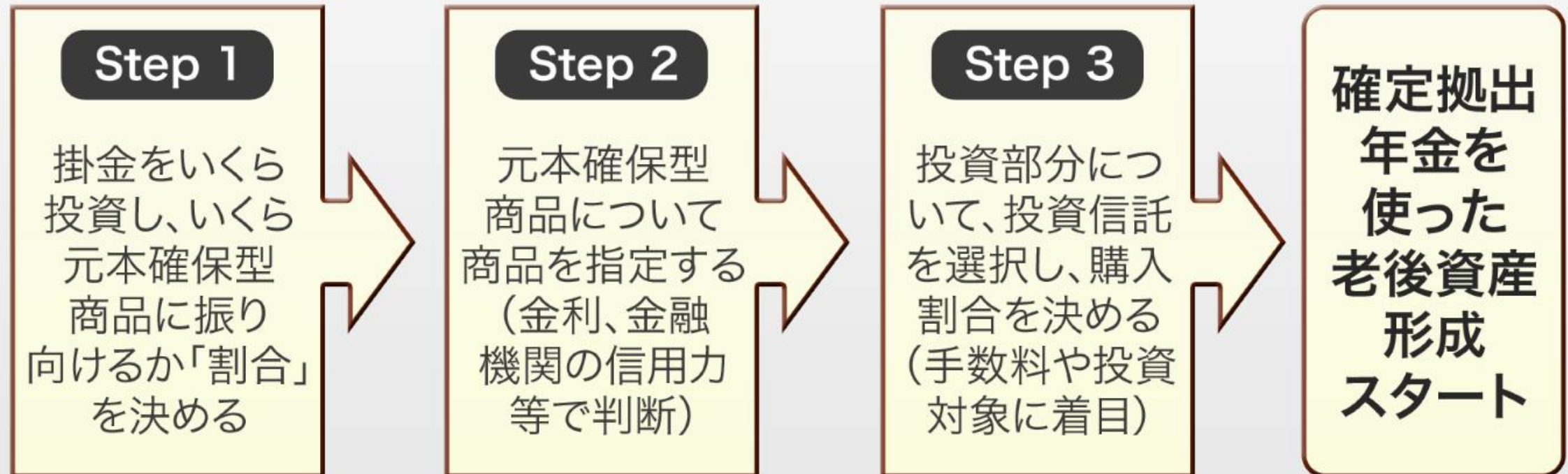
## 全額投資信託

- 価格の変動するリスクを負うことで高い運用利回りを目指す増やし方
- 短期的には大きな値下がりも生じうることに注意が必要だが、長期的には物価の上昇を上回る値上がりも期待できる

# 「投資の割合」をしっかりと決めよう

◆ 投資する割合はしっかり決めたい  
(どこまでマイナスになりうるか、  
どこまで大きく増やせるかを  
決める最大の要因)

◆ 投資割合にもとづいて、  
元本確保部分の商品選択、  
投資信託部分の商品選択を行い、  
割合を決定するとわかりやすい



# 運用の注文のやりかたは2つ

確定拠出年金の売買注文は大きく分けて2種類ある  
コールセンターやWEBで行う

## 毎月の掛金についての指示 (配分指定変更)

- ◆ 加入申し込み時に毎月の掛金で購入する運用商品の種類や本数、割合を決定し提出する
- ◆ その後は自動的に毎月同じ割合で新しい掛金で購入される
- ◆ 指定日までに変更指示をすると定期的な掛金入金時の購入商品を変更できる(変更しなくてもいい)

## すでにある資産の売買の指示 (スイッチング)

- ◆ すでにある資産の売買を行う
- ◆ 「Aを〇円売る」→「そのお金でBを買う」のように売り買いが対になって指示する
- ◆ 一日一回とりまとめられて、翌日以降に売買される
- ◆ 結果はWEB等で確認できる

# 仕事やプライベートを削らなくても投資はできる

- ◆ 確定拠出年金の資産運用は難しいと思っていないですか
- ◆ 投資信託を通じて、無理なく分散投資を心がければ仕事をしながら長い目でみて資産を増やすことが可能です
- ◆ また会社帰りに毎日何時間も株価や投資情報をチェックする必要もありません
- ◆ 投資を確定拠出年金の運用に組み入れて、老後の豊かさを手に入れましょう